

## 「山で困ったときのテクニク」再刊

本棚に『山で困ったときのテクニク』が置かれている。山と溪谷社が刊行した「YAMA BOOKS」シリーズの一冊として、1990年7月に世に出た。へえーもう19年の前のことだ、と我が事ながら感じ入った。今春、リメイク版が出ることになった。

そのために再度読み直し、古いものは捨て、新しい情報を入れたり、山に入らなかった年末年始、ちょっと忙しい思いをした。

ページをめくっていたら、「ヘッドランプ」が出てきた。カット写真が入っているのだが、古い。ヘッドランプが昔はこんなに大きかったのかと、改めて用具の進歩が凄いと思い、小さく軽くなっていることに感激の思いを強くした。

「みんなについていけない」「すぐ息苦しくなる」「足がつる」という項目が並んでいた。当時はまだ「岩崎流ゆっくり歩きで山でバテない五つの法則」が、発見されてなかったようだ。

昨年12月7日、クラブツーリズム九州旅行センターの企画で、大分県の鹿嵐山へ日帰りバスツアーがあった。集合場所である博多駅前に行くと、一人の男性が近づいてきて、ごあいさつされた。

「今年81歳になります。10年前に岩崎さんの講演会に参加して、中高年になったら競争しないで、ゆっくり歩きましょう、という話を聞いて、目からウロコが落ちました。おかげで今もこうして、元気に山に登っていられます」。

その男性、Fさんは60歳から山登りを始めたという。当時はしゃにむにがんばるのが登山だと思っていた。コースタイムに5時間と書いてあれば、4時間半で登り、以前4時間半で登ったコースは、4時間で登る。そんな結果を出すことに満足していた。もし、岩崎さんと出会わず、ガムシャラな登山を続けていたら、とうの昔に山に登れなくなっていたと思います。今回、こちらにお見えになることを知って、このツアーに申し込みました。もう一度お会いして、お礼が言いたかったものですから。

そんなあいさつを受けて、ぼくは非常にうれしかった。日本中、飛び回って「岩崎流ゆっくり歩き」を布教してきた甲斐があったというものだ。「岩崎流ゆっくり歩き」は、らんぼうさんとご一緒したNHK教育テレビ番組「中高年のための登山学」収録の時、まとめることのできたアイデアだったのだ。1995年のことである。

もちろん、リメイク版には「岩崎流ゆっくり歩き」を書き足しておいた。

オーロンのTシャツというのが、当時主流だったのだが、現在はもう市場から消えている。代わってダクロンの登場だ。ぼく的に思いもかけない新発明は、なんとといってもケータイ。現在、多くの登山者がどれだけお世話になっていることか。アブナイ使い方をする人も少なくないようだけど。ケータイは必携の登山用具である。